



2025年12月25日
第105号

JR 東労組 
Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一
編集 情宣 担当
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

「駅業務執行体制の再構築について」提案を受ける

地本は12月25日、横浜支社より表題の提案を受けました。提案内容および会社との議論については以下の通りです。

実施内容① 平塚駅、国府津駅、熱海駅、伊東駅におけるホーム業務体制の見直し
国府津駅と熱海駅については、それぞれ出面数の見直し（▲1テ）
業務の融合により、**駅社員（警備員含む）と乗務員とで車内貫通業務を行う。**

実施内容② 武蔵小杉駅における乗降終了表示の省略
出面数の見直し（▲1テ）

実施日 2026年4月1日

<主な提案時のやりとり>

組合側	会社側
平塚駅と伊東駅が、体制の変更が伴わないのは、車内貫通作業が少ないからか。	その通りである。
昨年の小田原駅での同様の施策実施時、警備員は遺失物の取扱いができないとされていたが、今施策でも同様か。	現在は警備員でも遺失物の取扱いが対応できるよう、契約を変更した。 拾得物は改札等に届けることとなる。
平塚駅について、作業がどのように変わるのか。	駅員と車掌とで車内貫通を行う。 乗降終了表示の掲出は継続して行っていく。
付属編成が分割入区となる場合の動線はどうなるのか。	さまざまなパターンについて訓練資料で周知をしていく。
分割時に後退小移動をさせない作業方法になるのか。	首都圏本部から話を聞いている。 まだ成案になっていない。
国府津駅についても平塚駅と同様の車内貫通方法か。	その通り。
深夜帯は2番・3番を交互に使って車内貫通し入区しているが、酔客等の復乗を防げるのか。	問題意識はあり、良い形を模索していく。
ホーム停車中に環境アクセスにより車内清掃・座席方転する列車についての取扱いはどうなるか。	駅員がアクセスの作業をみながらドア閉扉のタイミングを図り、乗務員に対してドア閉扉を放送で依頼する形となる。
御殿場線列車の分割作業の取扱いは変えるのか。	御殿場線列車の分割作業の体制は変更しない。
車交する場合の車内貫通の取扱いはどうなるのか。	JETS 構内運転士の入区の場合はパターンが異なる。
熱海駅での、JR 東海の回送列車の扱いはどうなるか。	JR 東日本の乗務員に関係する列車のみが対象となる。
伊東駅での、伊豆急車両の回送列車の扱いはどうなるか。	同上で、JR 東日本の乗務員に関係する列車のみが対象となる。

武蔵小杉駅における乗降終了表示の省略について

出面変化が▲1徹だが、ホームのもう1徹はどうなるのか。	乗降終了表示は省略となるが、終電帯の赤縛りや、朝通帯の対応は必要だと考えており、そのために1徹は残す。
実施期日に向けたスケジュールについてはどうか。	3月14日のダイヤ改正をもって、乗降終了表示は省略となる。 以後、4月1日までは試行を兼ねて2徹体制をとる。
ITVの整備についての考え方はどうか。	2月中に整備を完了する予定で進めている。

新たな作業にリスクがないか？ 感性を高め職場で議論しよう！